

SNSの新しいカタチ

青木義宗 岡崎泰希

要旨

高校生がより広くコミュニケーションを取ることが出来るようにするためのツールを考える。

SNS in a new style

Okazaki Taiki Aoki Yoshimune

supervisor:Sekiya Takashi

Abstract

We thought about a new tool of broad communications for high school students.

1. 序論

(1)研究動機

近頃、インターネットやスマートフォンの普及に伴い、特に若い世代でSNSが広く利用されている。私たちが普段、人とコミュニケーションをとるのに欠かせなくなっているSNSは、便利である反面、使い方によってはトラブル等も多く生んでいる。私たち高校生にとってより身近な研究の対象として、既存のSNSやソフトウェアの長所や短所を参考にして、SNSをより安全で有益にする工夫を考察した。

(2)仮説

新たな機能を有したSNSを開発することによって、生徒や学生が他の学校の生徒や様々な職種の大人、自分と同じ趣味や所属の人たちと、より安全かつ容易に幅広くコミュニケーションをとることができれば、興味のあることの知識を深めるだけでなく、意図しなかった新しい情報も入手できるだろう。

2. 研究の方法と調査結果

(1) アンケート調査

対象: 茨城立土浦第一高等学校(2学年の生徒233名)

内容: SNSにあると便利な機能、インターネット上でのトラブルに遭遇した経験など

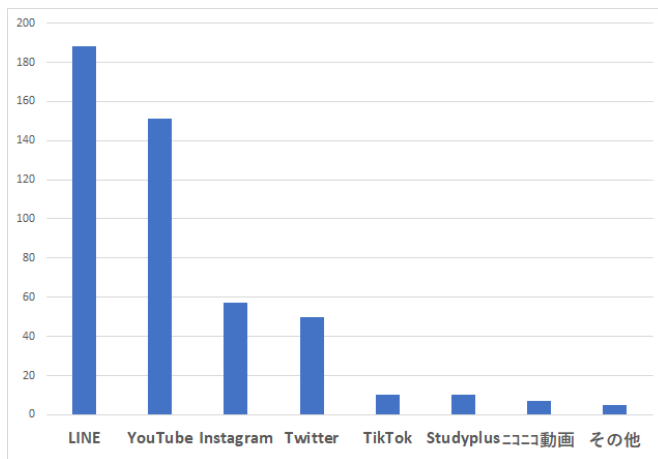
(2) 日立市教育委員会訪問 (令和元年8月18,19日)

- ・市内の小中学生から報告されている市内のインターネット上でのトラブルの具体的な件数
- ・子どもをいじめから守るための取り組み、監視の仕方について

3. 調査の結果

アンケートの結果を示す。以下のグラフの縦軸は人数を示す。

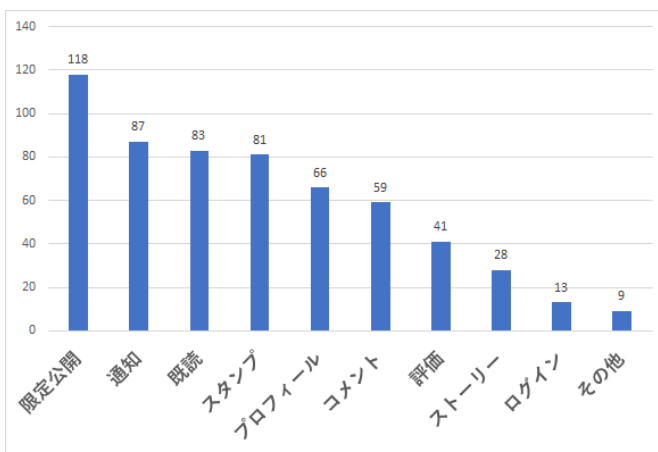
① 質問1: 特に使用する頻度の高いSNSは何か



- 1.LINE ⇒80.7%
- 2.YouTube ⇒64.8%
- 3.Instagram⇒24.5%
- 4.Twitter ⇒21.5%

- ⇒・Twitter、Instagramといった不特定多数と繋がるツールは、比較的敬遠している人が多い。
- ・内輪でのコミュニケーションツールや個人の娯楽として利用する人が多い。

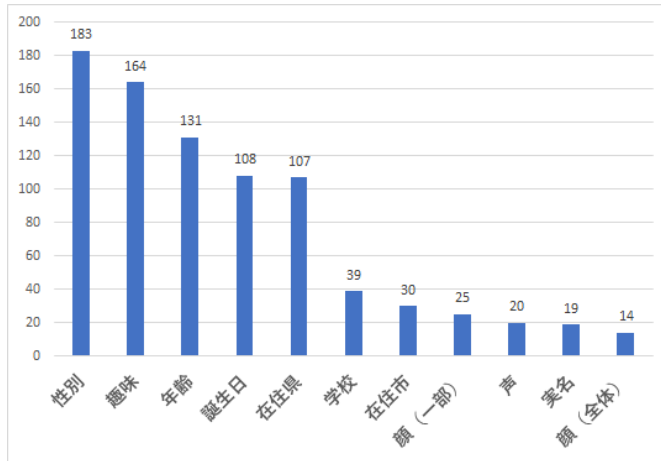
② 質問2: SNSに特にあったほうが良いと思う機能(3つまで)



- 1.限定公開 ⇒50.6%
- 2.通知 ⇒37.3%
- 3.既読 ⇒35.6%
- 4.スタンプ ⇒34.8%

- ⇒・プライバシーを守る限定公開を重要視する人が多かった。
- ・LINEの利用者が多いため、偏った結果になってしまった。

③質問3:(5)SNS上に公開できる自分の個人情報(あてはまるもの全て)(不特定多数の人が見るものとする)



- 1.性別 ⇒78.5%
- 2.趣味 ⇒70.4%
- 3.年齢 ⇒56.2%
- 4.誕生日⇒46.4%

⇒・同じ趣味の人とつながる目的での利用が多いと思われる。

・「学校」となると一気に壁が高くなる。

・一部には顔全体や実名を公開できる人もいた。「個人を特定する情報」が何なのかは、人によって大きく基準が異なるようだった。

4.研究結果をもとに考察したこと

これまでの研究を踏まえ、高校生のSNSに対するニーズとは、大きく分けて①コミュニケーションの取りやすさ②プライバシーの保護③卒業生との繋がり、の3点であることがわかってきた。私たちは、高校生のための、探究活動に役立てられる、より広く有用な人間関係を構築する事の助けとなる新しい形のSNSを構想することにした。

ここで、そのSNSをCHiEs(Community of High school students for Exploration activities)とすることにする。

この「CHiEs」には、以下の機能を付加するものとする。

(1)コミュニケーションの取りやすさ

まず、既存のSNSと同じように、ユーザー同士の個人間でのやり取りをサポートするシステムが必要だ。

①「検索システム」

キーワード(例:吹奏楽部、高校二年生、アニメ好き等)を入力することで、プロフィールを参照して該当するユーザーを表示する、というものだ。これにより、自分が欲する情報を持っているユーザーを探し、連絡を取ることが可能になる。

②「グループチャット」

複数人が集まってグループを作り、その中でコミュニケーションをとることで、より効率的な情報共有ができるようになる。また、学校の生徒全員が参加する学校単位のグループがあれば、そのグループにアンケートを送るだけで、現状困難な広範囲な複数校に渡るアンケートの配布・回収ができる。

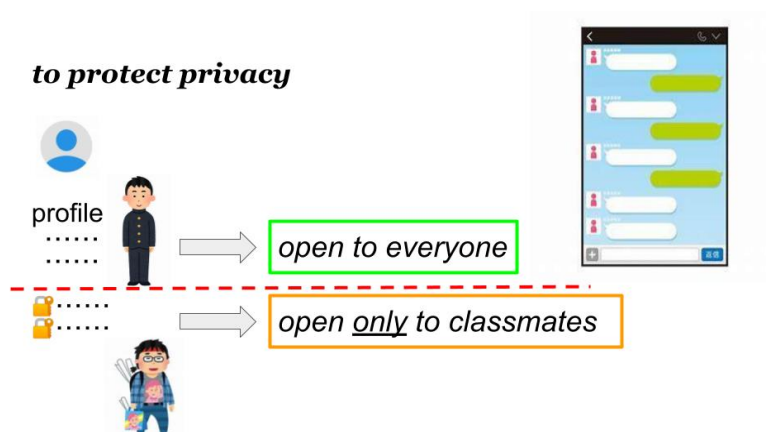
この2つの機能により、既存のコミュニケーションツールよりも充実させることができる。

(2) プライバシーの保護

交流に範囲を拡大した分だけ、想定されるトラブルを未然に防ぐ機能が必要になる。

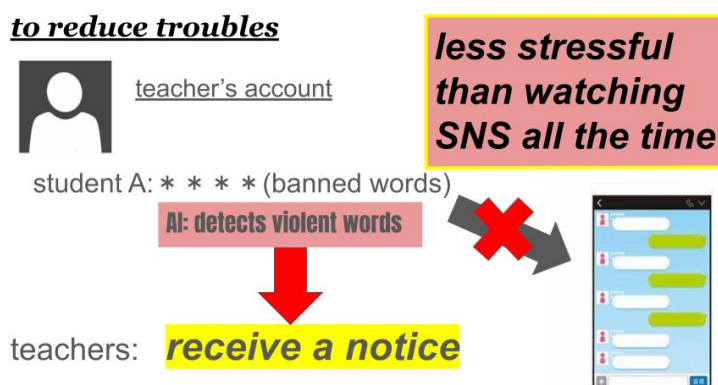
①プロフィールの公開/非公開

例えば、「〇〇という漫画が好き」という情報を、「同じ学校の生徒には公開、他校の生徒には非公開」というように設定できるようにするのだ。これにより、安心して公的なやり取りから私的な会話までできるようになる。



②教員による監視

日立市教育委員会への聞き込みから、生徒間のトラブルを防止するにはある程度教員による抑止力が必要であると考えた。とはいえ、四六時中SNSのやり取りを監視するのでは、教員にかかる労力が大きすぎる。そこで、生徒が禁止された単語を送ろうとすると、該当校の教員に通知が行くシステムを提案する。実際に、いくつかのSNSがAIを使った禁止ワードの検知を行っている。



この2つの機能により、ある程度のSNS利用に起因するトラブルの未然予防に繋がると思われる。

for easy communication with OB and OG

(3)卒業生とのつながり

CHiEsの独自の機能としては、卒業生とのコミュニケーション手段となる、という点が挙げられる。高校生が探究学習活動に取り組むための手段として、有益なルーツの一つとなると考えた。

現在土浦一高では、生徒が卒業生の連絡先を得るには教員を通す必要があり、もちろんリストのようなものも存在しない。それゆえ、探究活動をする生徒にとっても卒業生との連絡は敷居が高いものとなっている。もし卒業生の方で様々な職についている方々などからお話を伺えれば、より有益な情報を得られることは間違いない。

そこで、次のような仕組みを考えた。

「卒業生は、高校卒業後もCHiEsのアカウントを持ち、プロフィールを更新することができる。在学中の生徒は卒業生のプロフィールを閲覧し、必要な情報を得るために連絡を取ることができる。」というものだ。

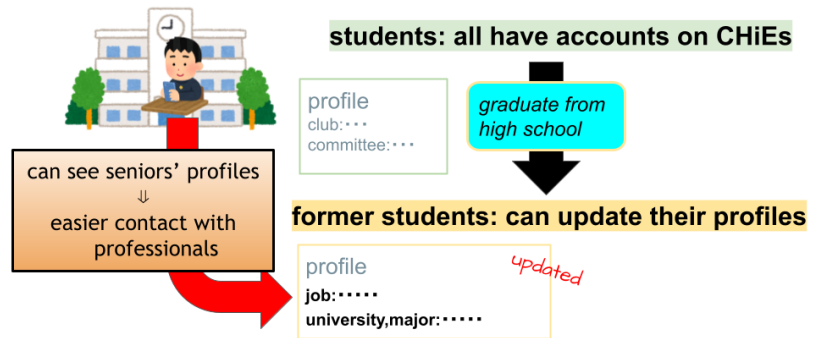
これにより、高校生と卒業生との繋がりを生かして、探究学習をより深めることができると考える。

以上が3つの課題の解決法である。

また、CHiEsの導入を現実的に考えた際に、茨城県教育情報ネットワークの活用が考えられる。県内の県立高校の生徒は全員アカウントを持っているため、CHiEs導入の基盤となるはずだ。茨城県教育情報ネットワークでは、現在、Gメールやグーグルスライドなどのポータルサイト上で、校内の生徒と情報交換をする手段しかない。CHiEsはこれを発展させ、より便利なツールにすることができると考える。

5.まとめ

新型コロナウイルス感染防止のための自宅学習期間には、SNSをはじめとしたソーシャルメディアを活用し、高校生たちがなんとか行事や課外活動を継続しようと工夫する姿が多く見られた。そのような姿を見て、SNSで知恵を分け合い、高校生同士がより活発に協力し合えたら、と考えたのもこの研究テーマを定めた理由の一つである。この研究を通して、高校生がより密接に協力する手段の可能性を探ることができたと感じている。



6.参考文献

平成29年度総務省調査研究「インターネット利用におけるトラブル事例等に関する調査研究」総務省 総合通信基盤局 消費者行政第一課 青少年担当

(https://www.soumu.go.jp/main_content/000506392.pdf)

SNSでの誹謗中傷「SNSいじめ」のメカニズム【書き起こし】(<https://gaiax-socialmedia.jp/post-91806/>)